

row — thicknes ● KIM Mitsuo works ● 2012.12.14 fri. — 12.27 thu. ● Gallery PARC



2012年に京都市立芸術大学大学院・版画科を修了した金 光男 (KIM Mitsuo / 大阪・1987〜) は、白く不透明なパラフィンワックス (蠟=ロウ) にシルクスクリーンによってイメージ (写真) を刷り込み、そこに熱を加えることで、個体から液体へと変容する支持体とともに定着したインクを動かし、コントロール不能な変容を画面上にもたらす《row》シリーズを中心に発表を続けています。刷り込まれたイメージは蠟とともに溶けて崩れることで「イメージと支持体」という関係性を失い、「インクと蠟」という等価な「物質」となって混じり合います。また、それらが冷えて再び個体に戻り、そこに新たなイメージとして再定着することで、刷り込まれた無機的で静謐なモノクロームのイメージは、有機的なノイズを帯びた画面を見せています。

金 光男は作品を構成する要素である情報 (インク) や支持体 (蠟) の量などを加減すること無く、ただそこにある然るべき秩序を奪い、イメージと物質を一時的にシームレスな関わりへと置き換えます。この極めてシンプルな転換はしかし、そこにイメージを構成するインクの粒としての振る舞いや、支持体でありながら固体・液体へと変容を繰り返す蠟という物質の有り様、ノイズを取り込んで現われる新たなイメージ、インクと蠟の混じり合ったひとつの物質としての存在など、様々な関係性の変化を静かに引き起こします。また、それは私たち鑑賞者にとっての「見るべき対象=イメージ」としての秩序をも奪うものであり、そこに視点の定まることのない視覚体験をもたらすのではないのでしょうか。

本展では、平面作品の過去作 [No.02, 03, 07, 08, 09] や新作 [No.01, 04, 06] とともに、実際の会場の床を写し撮ったイメージによるインスタレーション作品 [No.05] をあわせて展示します。ゆっくりと溶けながら変化し続けるインスタレーション作品は、平面作品に至る過程を見せると同時に、鑑賞者の存在 (空気の揺れによる白熱電球への干渉など) を作品に取り込みながら、会期中に常に変容し続けます。

イメージ: 物質、平面: 立体、高い: 低い、薄い: 厚い、ミクロ: マクロ・・・など、様々な視点からゆっくりと作品をご鑑賞いただければ幸いです。

【作家略歴】

金光男 Mitsuo KIM

1987 大阪市生まれ

2010 京都造形芸術大学情報デザイン学科先端アートコース卒業

2012 京都市立芸術大学大学院美術科絵画領域版画科修了

【おもな展覧会】

2012 版の時間 / Age of Prints (女子美アートミュージアム / 東京)

- アートアワードトーキョー丸の内2012 フランス大使館賞受賞記念展覧会「金光男 展」(日仏会館 エントランスホール / 東京)
- ART TAIPEI 2012 (Taipei World Trade Center / 台湾)
- HANARART 2012 (三輪地区 今西家 / 奈良)
- KIAF2012 Coex (Seoul / 韓国)
- モンブランヤングアーティストパトロネージインジャパン (銀座モンブラン本店 / 東京)
- 群馬青年ビエンナーレ2012 (群馬県立近代美術館)
- エモーションリリース・リブリーズ (アートサイトギャラリー / 滋賀)
- アートアワードトーキョー丸の内2012 (行幸地下ギャラリー / 東京)
- ANTEROOM PROJECT (HOTEL ANTEROOM / 京都)
- TOKYO FRONTLINE2012 (3331 Arts Chiyoda / 東京)
- 京都美術工芸新鋭展 (京都文化博物館)

2011 京展 (京都市美術館)

- out of the loop (@kcu / 京都)
- PORTO DI STAMPA (アートゾーン神楽岡 / 京都)
- 第5回大学版画展受賞者展 (文房堂ギャラリー / 東京)
- PORTFOLIO SESSION (Social Kitchen / 京都)
- 版画の断面#3 (悠創館ギャラリー / 山形)
- 第9回 風 - 明日への軌跡展 (ギャラリー恵風 / 京都)
- RE-PRINT (文房堂ギャラリー / 東京)
- 第36回全国大学版画展 (町田市立国際版画美術館 / 東京)

【受賞】

2012 群馬青年ビエンナーレ2012 奨励賞

- アートアワードトーキョー丸の内2012「フランス大使館賞」「木幡和枝賞」
- 京都芸術大学作品展 大学院市長賞
- 京都美術工芸新鋭展 朝日新聞賞

2010 第35回全国大学版画展 收藏賞

- 京都造形芸術大学卒業制作展 学科賞

コレクション

町田市立国際版画美術館、京都銀行、京都市立芸術大学、MONTBLANC JAPAN、eN arts collection

【statement】

昨日僕は髭を剃りました。

2.3ヶ月ほったらかした髭を剃ったのは、伸びてしまったからです。

別に髭を伸ばして威張ろう、格好をつけようという考えは無かったので、剃りました。僕の髭であったモノは今は僕のモノでは無くなり、排水溝を流れ、泡や、得体の知れないモノと混ざり、別のナニかになっていて、僕の考えを遥かに超えた場所で浮遊しているでしょう。

昨日まであった髭を剃ったのは伸びて邪魔だったからです。

不安定な素材であるパラフィンワックスの上に、シルクスクリーンプリントでイメージを刷り、パラフィンワックスを熱で溶かす。

コントロールできずにイメージが崩れ、再定着する。

立ち位置が定まる事で自身が明確になるのか？

常に矛盾を抱えながら流動的でいたい自分と、立ち位置を定めたい自身が、せめぎ合うこと。

【展示作品】

01. row - kaidan #3

2012 パラフィンを引いた綿布にシルクスクリーン、バーナー

02. row - grip

2011 パラフィンを引いた紙にシルクスクリーン、バーナー

03. row - rahu

2012 パラフィンを引いた綿布にシルクスクリーン、バーナー

04. row - chiritori to houki

2012 パラフィンを引いた綿布にシルクスクリーン、バーナー

05. row - yuka (parc)

2012 パラフィン板にシルクスクリーン、白熱灯

06. row - kabe (parc)

2012 パラフィンを引いたガラスにシルクスクリーン、ハロゲンライト

07. row - kanaami #3

2012 パラフィンを引いた綿布にシルクスクリーン、バーナー

08. row - koya

2012 パラフィンを引いた紙にシルクスクリーン、バーナー

09. row - kanaami #2

2012 パラフィンを引いた綿布にシルクスクリーン、バーナー

